

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400915		
法人名	株式会社 ほくおうサービス		
事業所名	グループホーム ほくおう 1F ポプラ		
所在地	札幌市西区西野8条4丁目10番12号		
自己評価作成日	平成 27年10月14日	評価結果市町村受理日	平成 28年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400915-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400915-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成27年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が混乱しないで普通の生活ができることを何よりも優先します。利用者が「心身の痛みを緩和し」「心を癒し」「生活に満足できる」ように導いています。車椅子の使用や移動が楽にできるように、廊下や階段・エレベーターは広めのつくりで、各階、明るく、ゆったりと生活できるつくりになっています。特に廊下は広く、運動・リハビリ・イベントなどいろいろな活動に利用しております。また、四季を通じて、季節のしつらえを行っており、生活の中で季節を感じていただけるように環境整備をしています。地域との交流にも力を入れており、清掃活動や輪投げ大会など町内会行事への参加を初め、小学校・児童会館との交流を積極的に行っており、例えば小学生には車椅子の体験学習の機会を提供させていただいています。今ある能力を最大限に発揮してその方らしい生活が日々送れるように、また、難しいことに関しては支援をさせていただきながら、利用者様が満足ができる生活ができるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手稲二股通りに面した鉄筋コンクリート造3階建て3ユニットの事業所で、中に入ると広い廊下が目に飛び込んでくる。広い廊下は運動・イベントなどに有効活用され、大きめのエレベーターで車椅子使用の利用者も楽に移動ができ、各階とも明るく、広さも充分あり、穏やかな環境で過ごすことが出来る。毎月夜間想定防災レクリエーションを実施して、常時避難方法を実践し、災害対策に対する意識が高い事業所である。地域との関わりを大切に、町内会行事へ参加したり、周辺住民の方々が訪れるなど地域の理解が高く、地域と一体感がある。また、近隣の小学校、中学校、児童会館との交流も多く、利用者にとって楽しみや喜びとなっている。事業所の行事、活動の報告、予定、避難訓練への参加呼びかけなどが掲載される地域広報誌(ほくおうたより)を、町内会長を通じて年4回、町内全世帯に配布して連携を深めている。管理者・職員は外部、内部の研修会に力を入れ、常に介護の知識や技術などの質の向上に努め、質の高いケアを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の理念の他に、事業所の理念を作り、来訪者が容易に見られるように掲示しています。新入職員には理念の説明をして、日々実践の中で理念共有を図っています。	事業所理念「やわらかな気持ちで、心地よい時間をすごせる」「仲間との関わりを大切に、活気ある生活を送る」「社会の中で自然に生活できる」を掲示し、その実践に努めている。新人に対しても、実践に向けた指導をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に町内会や近隣小学校の行事参加、児童会館の子供達との交流会、2校の中学生の職場体験受け入れを行う。町内会から、高齢者の集いの場として場所を提供してほしいとの要望が来ている。	2年前に歌声喫茶を実施して好評を得ながら地域との密接な繋がりを深めた。現在町内会長から町内の老人向けのお茶会を開催して欲しいとの要望が出ている。近隣児童との交流や中学生の職場体験を受け入れるなど、地域との交流が深くなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に避難訓練へ参加して実際に車椅子に乗ったり避難誘導を体験してもらったり、近隣河川敷の清掃に参加したり、小学校へ出向いて車椅子体験講習会を行うなど、地域の方達との交流の場を活かしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの実施状況を報告し、ご家族、町内会長や担当役員、包括支援センターの方達からも現状報告やご意見を伺い、サービス向上に取り組んでいます。	年6回開催し、町内会長、地域包括支援センター職員、家族、近隣住民等の参加がある。事業所・利用者状況やヒヤリハット事例の報告、避難訓練をした後の会議では消防署の総評の後活発な意見交換があり、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。テープ起こしをして議事録を作成し、家族に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの方から意見を伺い、回数は少ないですが区内の管理者会議にて各担当者と情報交換を行っています。統括主任が市へ赴いて相談事をしたり、アドバイスをもらって協力関係を築いています。	市区の窓口には、手続き等で訪問し、情報交換や問題点の投げかけなど密接に連携している。地域包括支援センターには事業所の取り組み方を相談して情報交換している。また、西区内にあるグループホームの管理者会議にも参加し、情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年一回は社内で全体研修を行い、定期的にユニット会議で実践的に身体拘束防止について話し合いの場を設けています。安全のためにフロア出入り口を施錠することもあります。戸外に出たい思いを傾聴して散歩に同行するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	毎月研修会や毎朝の申し送り事項やフロア会議などで遵守を行ったり、意見等を出して共有を図っている。外に階段があるので、フロアドアの開閉は電動ボタンで行っている。外に行きたそうな利用者を制止はせず、会話をしながら思いを聞き取り、時には外に付き添っている。防犯のため夜間のみ出入口の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて外部講師を招き講習会を開催したり、外部の研修の場にも職員参加し、知識の習得、事業所内でも常時虐待防止に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて外部講師を招き講習会を開催し知識の習得、活用しながら支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時他、直接ご家族様には書面かつ口答での説明を行いながら確認していき十分な時間を設けて理解・納得を図っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へ意見・要望アンケートを年2回実施しています。面会の際にもご意見を伺い、大きな行事にも数名の家族に参加して頂いて、少しずつですがご家族同士の交流も出来てきています。でてきた要望を会議で話し合いながら運営に反映できるよう取り組んでいます。	日常の会話で利用者の意向を把握し、連絡ノートに集約して職員で共有している。その内容は家族の面会時に家族にも報告している。家族へ意見・要望のアンケートを年2回行ったり、面会時には世間話から始めて利用者に関する要望を聞き取るようにしている。	家族が率直に意見要望を伝えることができる、運営推進会議に参加したり、夏祭りなどのイベントに家族の手伝いを要請したり、その前後に家族間の話し合いが出来る場を設けたりする工夫をして家族とのつながりを更に深めていくことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員・ユニット会議で、利用者様への対応や、業務の流れに関する意見提案を毎月のモニタリングを利用して行っています。管理者が普段から、職員が困っていることの聞き取りをして、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めています。	意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、申し送り、ミーティングやユニット会議で意見を言う時間をとり、毎月の文書でのモニタリングで意見提案の集約をしている。たとえば、災害訓練時に炊き出しを行い、楽しみながら災害時の備えを確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、課題分析を行い目標を設定、評価することでスキルアップを図っております。目標達成していく事ができるよう個別でのフォローアップ研修も定期的実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、外部研修、社内研修他、フロア内でのフォローアップ研修も行い実践の中で随時指導を行い質の向上に努め、チームとしての課題分析、目標設定、評価を行い、人材育成に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区主催の勉強会に参加し、ホーム同士の交流を設け自他共に向上を努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、入居前には見学していただいたり、ご本人と事前に面会、会話を図りご家族や担当者とも密に詳細を確認し不安解消を図れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、日常の様子を見学していただき、相談や要望、ご家族の意向も伺い信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族よりお話を伺い生活を送る中で必要としている支援を見極め課題を分析しケアできるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中で共に喜怒哀楽を感じ、人生の先輩として入居者様からも学ばせていただく姿勢を大切にしています。互いに理解を深め信頼関係を築けるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の喜ばれた事や表情、どんな事に困ってどんな援助をし、どのようになったかをご家族にお伝えしています。場面に応じご家族に協力していただけることを取り入れ生活に張り合いが持てるよう支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人など馴染みの方との面会や交流、近所の美容室などご本人が好まれる場所に出かけて、快く感じ、満足ができる支援ケアをご家族と共に努めています。	家族の来訪も多く、中には本州から年2回ほど来訪する家族もいる。利用者と家族、知人友人からの情報を基に元の職場や馴染みの場所等を把握している。近所の美容室へ送迎したり、馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との交流が難しい場合は職員が仲介をし孤立感が生じないよう環境を整え円滑な交流が図れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等での相談にも誠意を持って対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用することで入居者様の思いや生活暦を把握し、ご本人主体のケアを実践しています。	家族からの情報をアセスメントシートに記載し、スタッフ会議等で情報を共有している。外出したい場所、焼肉やラーメンなど誕生日会で食べたいものを聞いて提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、入居者様より入居前の暮らしについて情報をいただき生活に反映できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の確認、振り返りを行い生活状況を毎日記録し、問題点やニーズについては計画書に反映、随時必要な場面では変更し、月1回は全スタッフで話し合い現状把握に努めます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご家族、ご本人から意向を伺い、計画作成担当者を中心にケアカンファレンスを開き、プラン反映、毎月モニタリングを記載していき、半年毎に見直しを行いスタッフ全員がその内容を共有実施しています。	毎月のモニタリングや定期的に家族と利用者の意向を聞きながら、6カ月毎に介護計画を作成し、家族・利用者の同意を得て、サービスの提供を行っている。その内容はスタッフ全員が情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書に沿って実践、評価と生活状況の記録を毎日行い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域での活動にも参加していただいています。畑作り、近隣への買い物等、フロア内での生活に限らず場面に応じた対応を図っています。また、町内会のお茶会の場として事業所のスペースを提供しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練では地域の方にも参加していただき協力を得ています。定期的に町内の方や近隣小中学生との交流会も開催するなど、地域のいろいろな方々の協力を得ております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科の定期的往診や看護師の訪問で日常の医療管理を強化しています。特変時には速やかに対応を図り状態経過観察報告をご家族へ行い必要に応じ医師からの説明等も行ってます。	かかりつけ医の受診は家族同行が基本だが、要望があれば職員が同行している。内科や歯科の定期的な往診、看護師の訪問で対応している。特変時には、家族に連絡し同意を得て、症状に応じた専門病院にて受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師の訪問時に、身体状況報告・相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けれるよう詳細を説明、一覧をお渡しし経過状況確認、情報交換に努めております。退院後も生活に支障がないよう医療機関と密に連携を図り、入退院に備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合の対応についてご家族と、お話をしています。また急に状態が急変悪化しホームでの生活が困難になった場合も医師、ご家族、本人と話し合いながら納得のいく方法を検討しチーム全体での支援を行っています。	入所時に利用者や家族に重度化について説明をし同意を得ている。事業所の体制や条件がそろえば、将来的に看取りを考えている。また、医療行為を必要とする症状の急変等には、主治医、家族と話し合いを行い、医療機関の紹介・入院など、希望に添えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、応急手当、初期対応に関するフォローアップ研修や実践研修も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと避難訓練を実施し、災害訓練を1回地域住民の方にも参加協力体制を図ってます。避難方法を体得する意味で月1回夜間想定防災レクリエーションを実施しています。災害訓練時には、炊き出しも行いました。	家族、町内会長など住民、職員、利用者が全員避難行動して想定した場所への移動をチェック板を活用して質の高い訓練をしている。訓練後に運営推進会議で消防の講評、参加者からの意見を得ながら改善に繋げている。毎月夜間想定防災レクリエーションを実施して、常時避難方法を実践している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持って接し、言葉使いに配慮し、謙虚な姿勢を心がけています。すべての居室が個室になっており、プライバシーが保たれる環境を整えています。	事故防止等の安全確保のため、出来るだけ居室のドアを開けている。利用者の人格を尊重し、話し掛けにも配慮し、謙虚な姿勢を心がけている。利用者がベットから起き上がるなどの行動で転倒を防止するために、拘束にならない範囲で福祉器具としての起き上がりセンサーや鈴を用いて予防している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人に合わせた関わり方を心がけ、意向の確認、自己決定を行う事ができるよう働きかけを行つたいです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の気分や状態に応じ、本人らしさを大切に支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容の際は、カット・パーマ・カラー・髭剃りとご本人の希望を尊重しています。近所の馴染みの美容室に通う方を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り材料を切ったり、盛り付け、得意な料理作りをしていただき、一緒に準備、分担して後片付けを行っています。穏やかな音楽を流すなど、職員と一緒に食卓を囲みながら食事が楽しみとなる雰囲気作りにも努めています。	食材を切り盛り付け、下膳まで利用者は能力に応じて行っている。職員と一緒に畑で採れた野菜を話題にしながら楽しんで食べている。お花見弁当を用意してホーム内で食べたり、団子などのおやつをみんなで作るなど食事が楽しめるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士指導のもと栄養バランスの良い食事提供と、水分摂取量は記載確認し把握に努め、病状に応じて治療食の提供、食事形態にも工夫を図り、嗜好品も取り入れながら摂取量の安定を図っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回、歯科往診ケア、歯科医から実施指導を受け毎食後にケア実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄習慣、排泄パターンを把握するためにアセスメントなどの情報収集を行い、身体状況に応じた排泄方法を支援しています。	気配や排泄パターン表を活用して、トイレの誘導をして自立排泄を支援している。失禁がでた時はセンター方式の24時間の行動パターンを記録して対処している。移動トイレはあるが、現在は使っていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事管理と乳酸菌の提供、体操等の運動を取り入れたり、病状に応じ腹部マッサージも行い便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者のその日の体調や気分に応じて入浴していただいています。その時の状態に応じた対応支援を行っています。	体調を見ながら1週間に2回入浴している。脱衣場は天井からの暖気で温かく、浴室も広く利用者考えた作りになっている。入浴時は、利用者と馴染みの話題や歌などを歌いながら、言葉かけに気を付けながら楽しい入浴になるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや、お部屋のベッドなど希望、状況に応じた対応を図っています。安心のできる環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報に関しては常に確認のできる場所に保管し、必要時には確認しています。居宅療養管理指導により、薬剤師による薬剤管理セット、助言をいただく中で支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の趣味や個性、得意性を活かせるよう生活の中に取り入れてます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のコンビニ、ドラッグストアを活用する事で顔馴染となったり、定期的に外出行事を企画しています。またご家族の協力を得ながら昔馴染みの場所へも行くことができるよう支援しています。夏祭り、稚魚放流やゴミ収集など地域の行事にも積極的に参加し、様々な外出の機会を設けています。	日常の散歩、買い物外出ツアーのほか、苗植え・収穫祭の畑仕事など日差しを浴びての軽作業の機会を設けている。また、入居者の体調等の状況を見ながら、家族の協力を得て、近くの公園や動物園に行く外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をできる方には、お小遣いの管理をしていただいています。買い物の際には一緒に確認し支払い代行、状態に応じた対応を図っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、状態に応じていつでも支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や共有スペースには花や観葉植物を置き、アクティビティ時には季節感を取り入れた貼り絵等の作品を作りフロア内に飾っています。また室温や光の調整にも配慮しています。	特に廊下が広く、明るく、3フロア合同でのイベントに利用したり、レクリエーションの場になっている。ところどころに椅子・ソファを置き、利用者は思い思いに過ごしている。花や飾り物、窓からの景色は季節を感じさせる。リビングは広く、ゆったりとしたソファなどが配置されて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルやソファ、カウンターでもくつろげるよう工夫を図り入居者によっては馴染みの場所ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望によりご家族の写真や大切にされていたもの、ご使用になられていた家具等をご持参いただき居心地の良い環境作りに努めています。	クローゼットは備え付けで、ベッド、タンス、テレビなど馴染の品を家族と相談して持参している。ドアに表札、仏具、塗り絵を飾る利用者もいる。温度調整・換気にも配慮し、清掃も行届いていて清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活状況を把握する中で、センター方式を活用して、できる事、わかる事を見極め安全で安心した生活を送る事ができる自立支援に努めています。		